

9. 京都府立東舞鶴高校連携授業

小原 万侑

1. 概要

文化情報学研究室では、2023年11月20日に京都府立東舞鶴高校を訪問し、同校2年生の「日本史探究」の授業内で、舞鶴市内を写した古写真を使用した連携授業を実施した。なお、この授業は、京都府立大学の地域貢献型特別研究費（ACTR）「京都府北部のMALUI連携による文化資源を活かした地域づくり」（研究代表者：東昇）の一環で行われたものである。

調査日程 2023年11月20日、2024年2月19日

調査参加者 東昇（教員）、長谷川巴南（博士前期課程2回生）、渡邊幸奈（4回生）、小原万侑、小島慧音、島村朱音、渡部凌空（以上3回生）、岩間智哉、山蔭晴人（以上2回生）、上武恒介（1回生）

2. 内容

授業を行う前に、調査参加者は授業で使用する予定の写真の中から担当するものを選び、写真の詳細について調べ、各自生徒にどのような内容の助言を行うか考えた。なお、写真は『写真アルバム 舞鶴・宮津・丹後の昭和』（樹木舎、2021）、『写真集「ふるさと舞鶴」』（郷土出版社、2013）の中から選ばれたものである。

初回授業である2023年11月20日は、まず高校生に向けて文化情報学研究室や歴史の調査方法についての説明を行った。その後、高校生は事前に決められた班ごとに分かれ、調査参加者が1班に1人つくかたちで引き続き授業を進めた。高校生が中心となり、写真について気づいた点や特徴などを見つけ出し、それらについて「まるまる舞鶴」や現地調査で調べることを冬休み間の課題とした。2月19日の授業において、高校生は調べた内容を元に作成したレポートを各自発表し、意見交換を行なうなど理解を深めた。



写真1 文化情報学研究室説明の様子



写真2 班ごとに課題に取り組む様子

編集後記

フィールド集報の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの考古・建築・地理・文化情報の合同実習メニューとして学生が Adobe 社の InDesign を利用しておこなっている。

今年度は、3年ぶりに多様な場所・フィールドで調査をおこなうことができた。調査時だけでなくその後の作業においても多くの方々からご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。

海外の調査も徐々にではあるが再開されるようになった。来年度はまた違うところに行きたいと思う今日この頃である。(き)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第10号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2024年3月30日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2
